

令和4年度 猪名川町立中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立中学校2年生の生徒 290名
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

2022年4月19日（火）

■ 調査結果

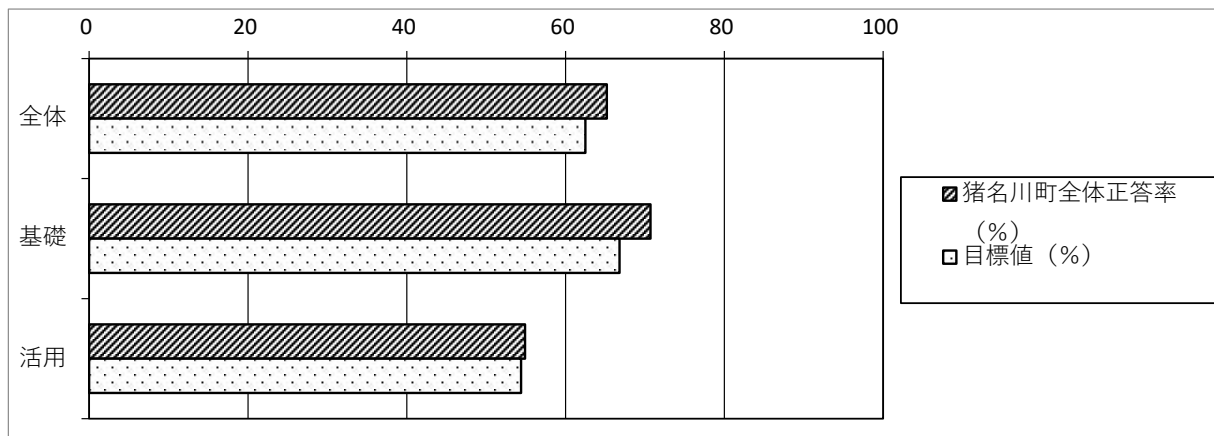
【中学校の調査結果】

		猪名川町全体 正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差	全国平均 正答率 (%)	全国との差
中学校・ 2年生	国語	65.2	62.5	2.7	66.7	▲1.5
	数学	55.8	58.8	▲3.0	56.6	▲0.8
	英語A	54.2	55.8	▲1.6	55.9	▲1.7

※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

■中学校2年生 国語
 (1) 基礎・活用正答率

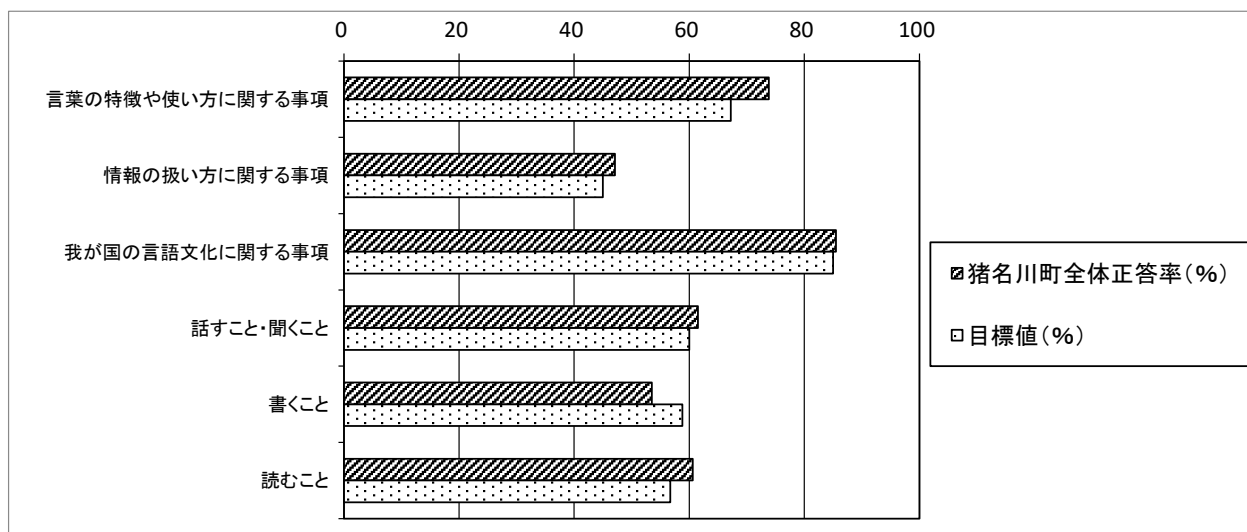
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	65.2	70.7	54.9
目標値 (%)	62.5	66.8	54.4
目標値との差	2.7	3.9	0.5



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は70.7%と目標値を3.9ポイント上回っている。活用問題については、54.9%と目標値を0.5ポイント上回っており良好な状態である。

(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
猪名川町全体正答率 (%)	73.8	47.1	85.5	61.5	53.5	60.6
目標値 (%)	67.2	45.0	85.0	60.0	58.8	56.7
目標値との差	6.6	2.1	0.5	1.5	▲ 5.3	3.9

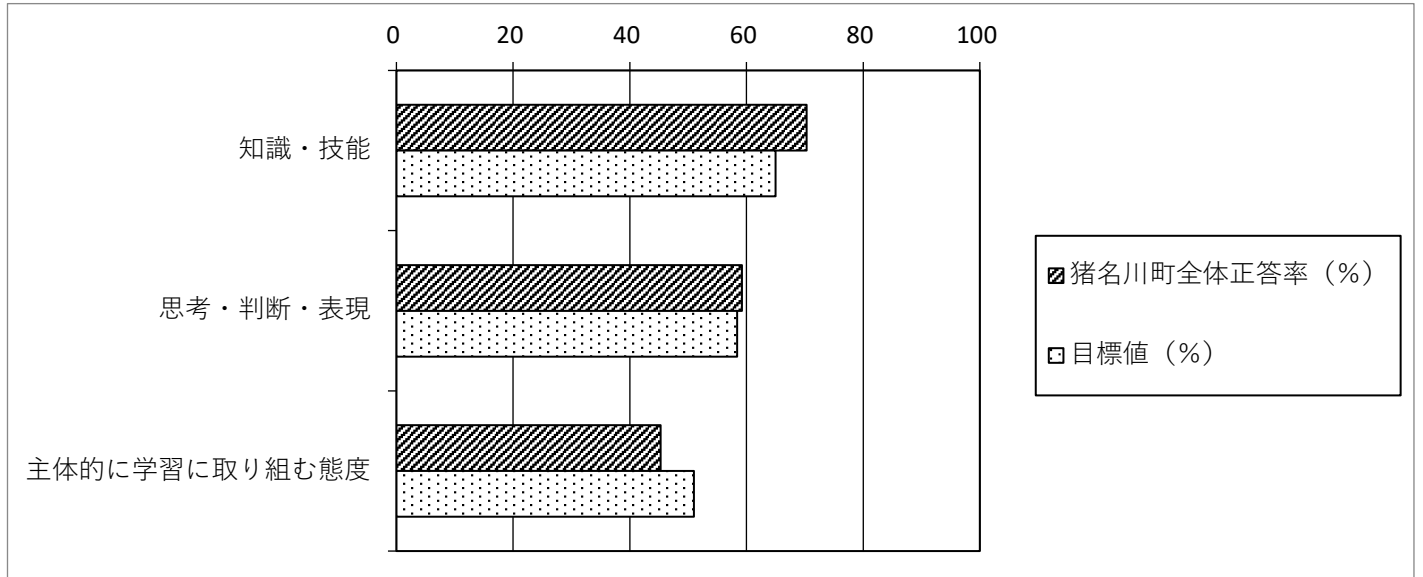


●領域別に見ると、「書くこと」は目標値を5.3ポイント下回り課題であるが、それ以外の項目は目標値を上回り良好である。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

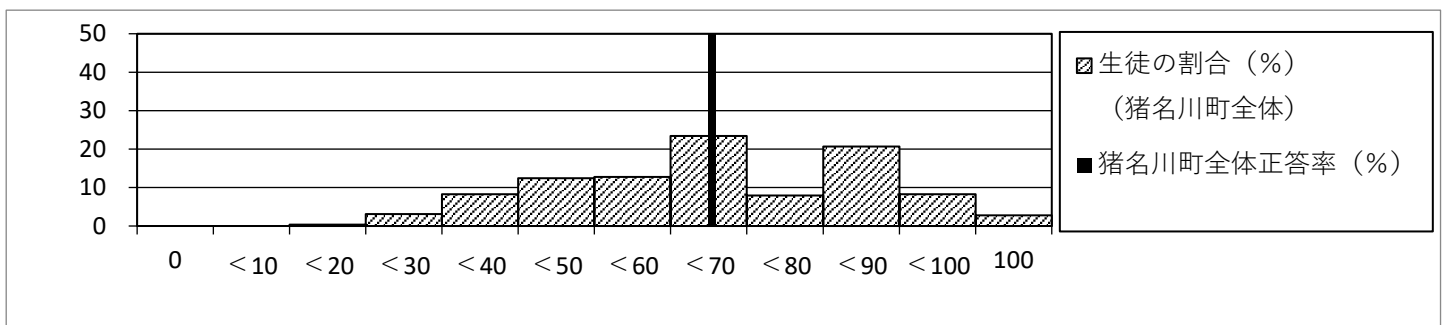
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	70.3	59.2	45.3
目標値 (%)	65.0	58.4	51.0
目標値との差	5.3	0.8	▲ 5.7



●観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」で目標値を上回り良好である。「主体的に学習に取り組む態度」は目標値より5.7ポイント下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.0	0.3	3.1	8.3	12.4	12.8	23.4	7.9	20.7	8.3	2.8



●町全体で正答率80%以上の生徒が31.7%と令和3年度の24.0%から増加し、正答率50%未満の生徒は24.1%と令和3年度の12.0%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(3)

【話し合いの内容を聞き取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	26.9	40.0	▲ 13.1	31.6	▲ 4.7
出題のねらい	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。				
対策	「木村さん」が話そうとしている、「田中さん」と「山下さん」の考えの共通点は、「豊かな人間関係を築く」ということである。これを実際に話すように書く。話し合いでは、それぞれの発言を相互に、更にそれらと自分の考えを結び付けて考えをまとめることが大事である。これにより、より良い発想を生み出したり、合意形成に向けての妥協点を探ったりすることができる。実際の話し合いの音声データを教材にして、ポイントとなる場所で音声データを止め、互いの発言をどのように結び付けていけばよいのかを考えさせるなどの学習が効果的である。				

大問2(2)①

【漢字を書く】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	65.5	70.0	▲ 4.5	71.1	▲ 5.6
出題のねらい	小学校で学習した漢字を正しく書いている。				
対策	漢字の学習については、新出漢字を押さえただけでも大変であるが、特に大切なことは、身に付けた漢字の知識を活用できるような場を設定していくことである。小テストを行うだけではなく、生徒どうしが問題を作って出し合うといったように、クイズ形式で学ぶ機会を設けるなど、さまざまな指導の工夫を行っていききたい。				

大問4(3)

【説明的な文章の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	36.2	40.0	▲ 3.8	40.2	▲ 4.0
出題のねらい	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。				
対策	段落相互の関係を捉える問題だが、筆者の論の展開を理解し、段落相互の関係を考えることを苦手としている生徒は多い。これは、これまでの段落分けの学習が、文章の形式について、生徒が自分の考えをもつことにつながってこなかったためと考えられる。学習指導要領には、文章の構成や展開など、文章の形式についても、自分の考えを形成するという指導事項が設けられている。こうしたことを踏まえて、説明的な文章の学習を工夫していききたい。				

大問7

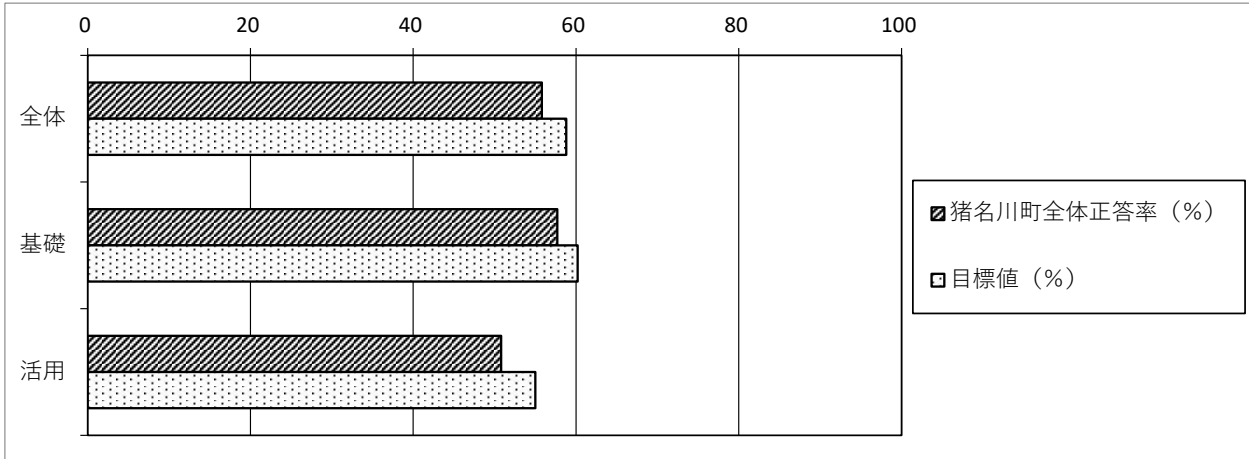
【文章を書く】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	52.8	60.0	▲ 7.2	64.3	▲ 11.5
出題のねらい	2段落構成で文章を書いている。				
対策	文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。本問では、第一段落に「AとBの紹介カードの特徴をそれぞれ書くこと」、第二段落に、「AとBのどちらの紹介カードの方がこの本を読んでもらえると思うか、自分の考えと、その理由を書くこと」が求められている。条件はヒントでもあることを理解させ、文章を書くための基礎的な知識を活用できるように、繰り返し学習を行わせたい。				

■中学校2年生 数学

(1) 基礎・活用正答率

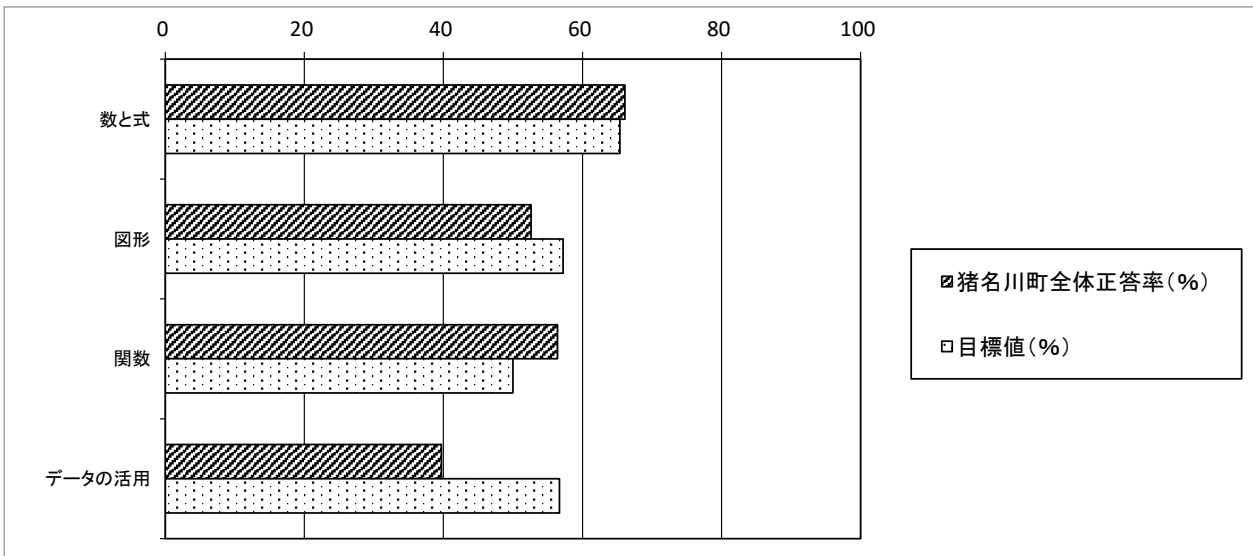
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	55.8	57.7	50.8
目標値 (%)	58.8	60.2	55.0
目標値との差	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 4.2



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は57.7%と目標値を2.5ポイント下回り、活用問題は50.8%と目標値を4.2ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
猪名川町全体正答率 (%)	66.1	52.6	56.4	39.7
目標値 (%)	65.4	57.2	50.0	56.7
目標値との差	0.7	▲ 4.6	6.4	▲ 17.0

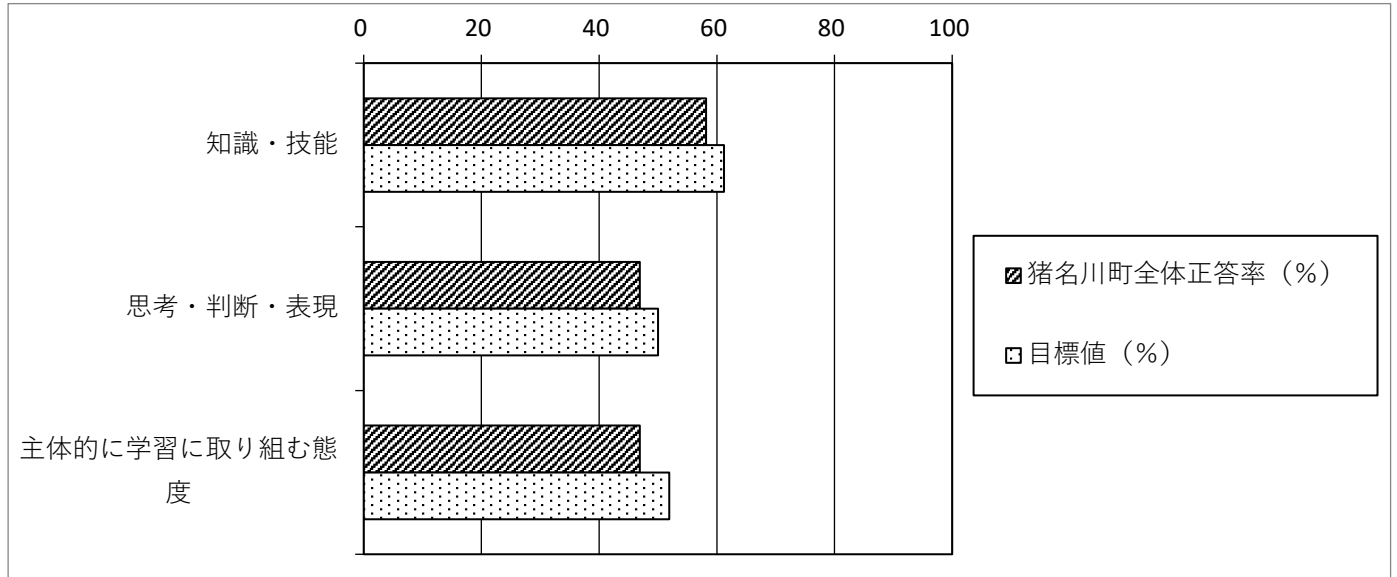


●領域別に見ると、「数と式」「関数」は目標値を上回り良好であるが、「図形」「データの活用」は目標値を下回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

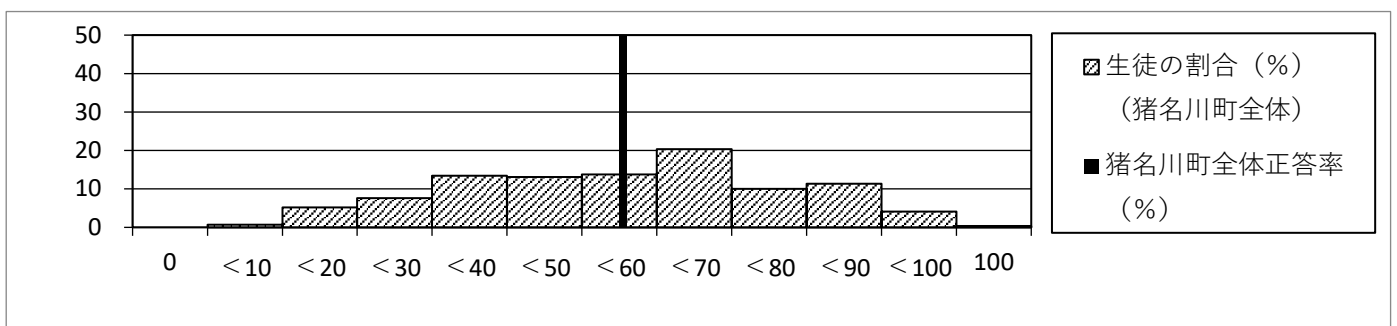
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	58.2	46.9	46.9
目標値 (%)	61.2	50.0	51.9
目標値との差	▲ 3.0	▲ 3.1	▲ 5.0



●観点別に見ると、すべての項目が目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.7	5.2	7.6	13.4	13.1	13.8	20.3	10.0	11.4	4.1	0.3



●町全体で正答率80%以上の生徒が15.9%と令和3年度の18.9%より減少し、正答率50%未満の生徒も40.0%と令和3年度の28.1%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問8

【文字式】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	62.1	65.0	▲ 2.9	66.8	▲ 4.7
出題のねらい	示された式に対応する図を選ぶことができる。				
対策	誤答の原因としては、与えられた文字式の意味が理解できないこと、文字式は理解していても、文字式に合った棒のまとまりの図を選べないことなどが考えられる。 $6+5(n-1)$ の n は正六角形の数によって変化するが、 6 と 5 は変化しないことに着目させる。例えば、 $n=3$ のときの図をかかせるとともに、必要な棒の本数 $6+5\times 2$ は、 6 本に 5 本のまとまりが 2 つあることを理解させ、この式が表している囲み方を実際にかかせることとよい。また、選択肢①、③、④の図から全部の棒の本数を文字式に表すことについても考えさせると、理解がより深まる。				

大問9

【比例・反比例】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	31.0	40.0	▲ 9.0	34.9	▲ 3.9
出題のねらい	関数について理解している。				
対策	誤答の主な原因としては、関数の意味を理解していないことなどが考えられる。伴って変化する2つの量 x 、 y があって、 x の値を決めると、それに伴って y の値も1つに決まるとき、 y は x の関数であるということを確認させる。その上で、具体的な事象について、関数であるかどうかを考えさせるとよい。1つに決まる、決まらないだけを答えさせると、当てずっぽうで答える生徒もいるので、それぞれについて、1つに決まる理由、決まらない理由についても答えさせるようにすることが大切である。				

大問15

【空間図形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	36.9	60.0	▲ 23.1	38.1	▲ 1.2
出題のねらい	おうぎ形の面積を求めることができる。				
対策	誤答の主な原因としては、おうぎ形の面積を求める式を覚えていないこと、弧の長さを求める式と混同していることなどが考えられる。半径 r 、中心角 a° のおうぎ形の面積 S と、弧の長さ l を求める式は、 $S=\pi r^2 \times a/360$ と $l=2\pi r \times a/360$ で表されることを確認させる。また、円の面積の公式になぜ $a/360$ をかけるのかを理解しておらず、式のみを覚えている生徒がいるので、おうぎ形の円に対する割合をかける意味について、中心角が 180° や 90° 、 60° などの場合を例に挙げ、図と併せて指導したい。				

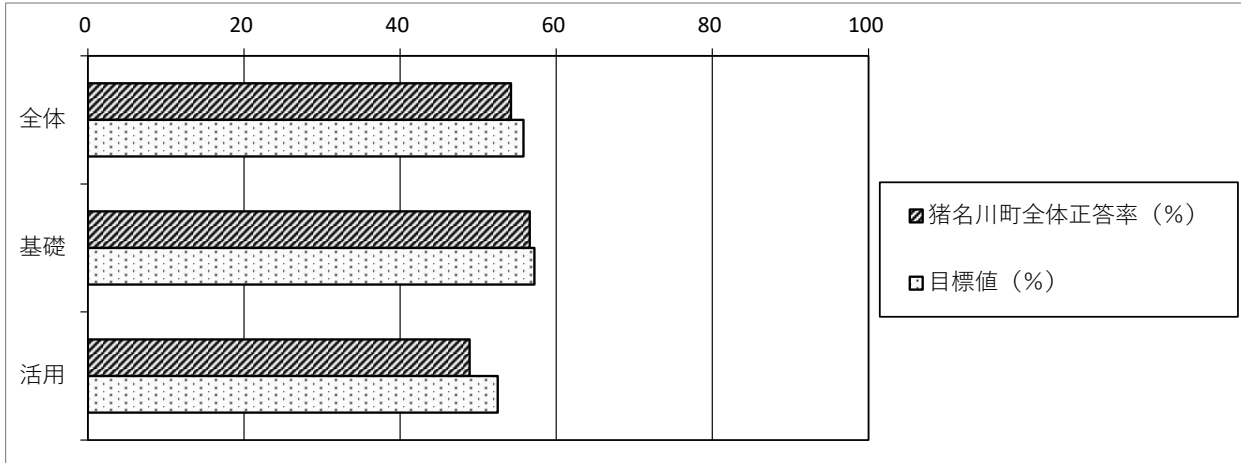
大問18(1)①

【データの分布の傾向】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	34.5	60.0	▲ 25.5	47.2	▲ 12.7
出題のねらい	累積度数について理解している。				
対策	誤答の主な原因としては、累積度数とは何かを理解していないこと、忘れてしまったことなどが考えられる。小さい方からある階級までの度数の総和を累積度数ということを理解させ、求められるようにさせることはもちろんであるが、それだけではなく、度数分布表やヒストグラムなどについても、それらの意味や見方について確認させるとよい。さらに、相対度数や累積相対度数などについても、求め方や、何のためにそれらが必要であるのかを考えさせると、より理解が深まる。				

■中学校2年生 英語A
 (1) 基礎・活用正答率

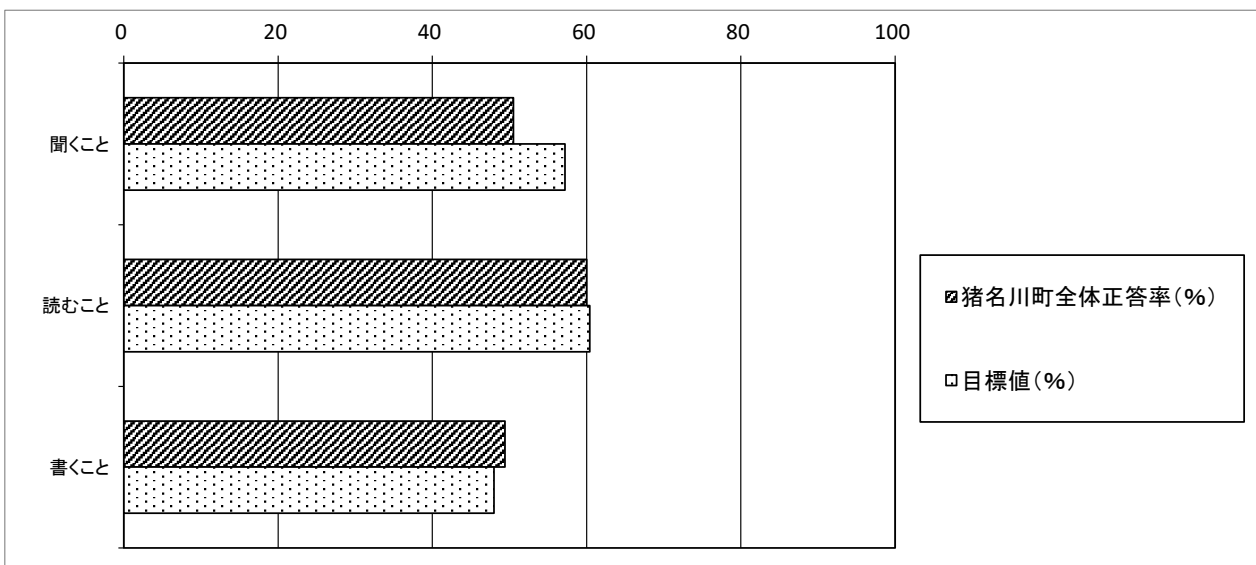
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	54.2	56.6	48.9
目標値 (%)	55.8	57.2	52.5
目標値との差	▲ 1.6	▲ 0.6	▲ 3.6



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は56.6%と目標値を0.6ポイント下回り、活用問題は48.9%と目標値を3.6ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	聞くこと	読むこと	書くこと
猪名川町全体正答率 (%)	50.5	60.0	49.4
目標値 (%)	57.2	60.4	48.0
目標値との差	▲ 6.7	▲ 0.4	1.4

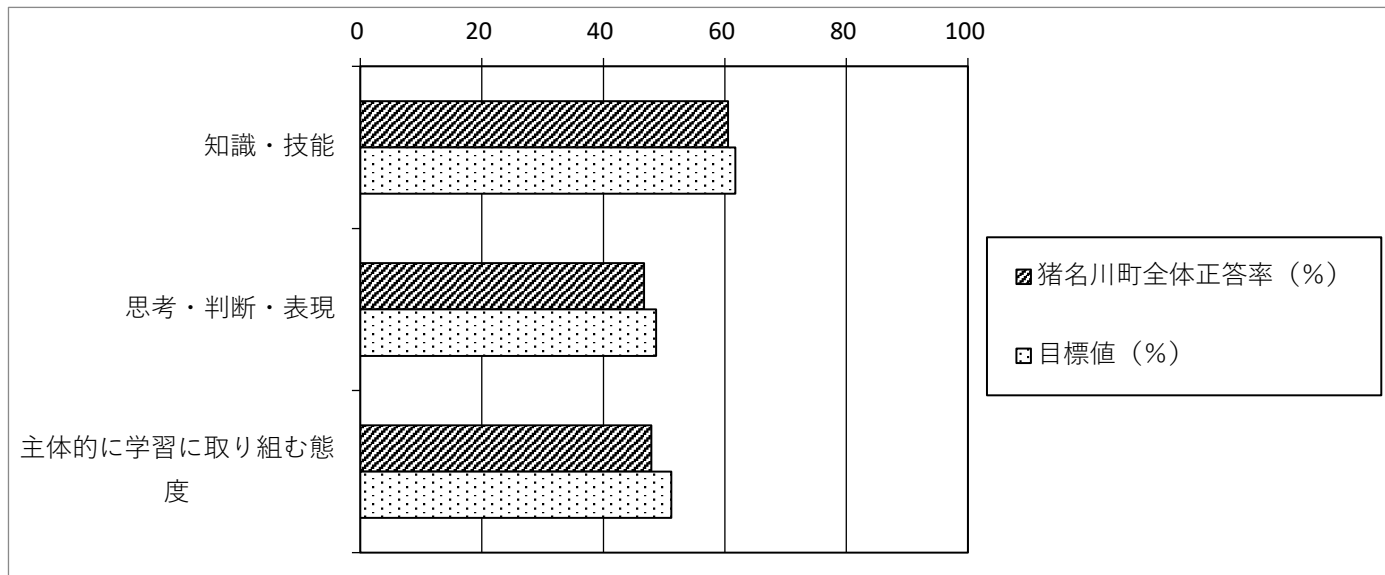


●領域別に見ると、「聞くこと」「読むこと」は目標値を下回っているが「書くこと」は目標値を1.4ポイント上回っている。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

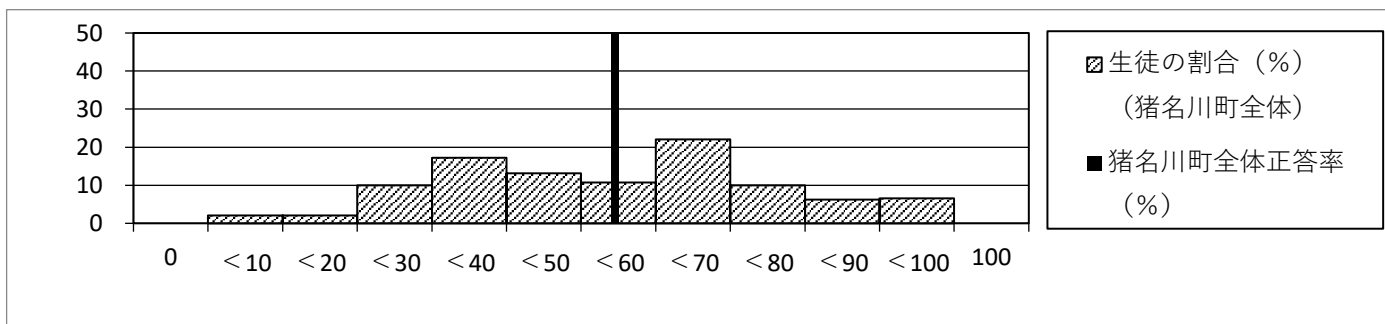
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	60.5	46.7	47.9
目標値 (%)	61.7	48.7	51.2
目標値との差	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 3.3



●観点別に見ると、すべての項目が目標値を下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	2.1	2.1	10.0	17.2	13.1	10.7	22.1	10.0	6.2	6.6	0.0



●町全体で正答率80%以上の生徒が12.8%と令和3年度の21.8%より減少したが、正答率50%未満の生徒は44.5%と令和3年度32.8%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問5

【リスニング（さまざまな英文の聞き取り）】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	11.0	30.0	▲ 19.0	11.4	▲ 0.4
出題のねらい	英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができる。				
対策	授業において、日常的な話題についてペアで話させる活動（チャット）や、教師のsmall talkのような活動を通して、表現や語彙を増やしておくことよい。例えば、“Which season do you like the best?” のようなテーマで生徒に会話をさせるとすれば、“I like summer. I can play with “Hanabi” .” のような反応が生徒からあったら、“ “Hanabi” means “firework” in English.” と教えることができる。このようにして身近な話題で語彙を増やしていくことによって、本問のような形式の問題に対応できる力が少しずつ付いてくると思われる。				

大問6(1)③

【語形・語法の知識・理解】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	55.9	60.0	▲ 4.1	50.6	5.3
出題のねらい	語形・語法を理解することができる。（be動詞were）				
対策	主語が2人で、andでつながれている場合、生徒は誤って最初の1人だけに着目してしまうことが多い。日頃から、主語はどれか、動詞はどれかなどと意識しながら英文を読む練習を重ねさせることが大切である。また、本問の場合は、質問の文末にyesterdayがあり、また答えに動詞の過去形が使われていることから、areではなく過去形のwereが当てはまることにも注意させたい。				

大問7(2)

【さまざまな英文の読み取り】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	51.0	65.0	▲ 14.0	61.0	▲ 10.0
出題のねらい	必要な情報を読み取ることができる。				
対策	全国学力・学習状況調査の英語予備調査で出題された問題の類題である。授業において教科書を教えるときに大切なこととして、まず自分の力で読ませてみる、ということが挙げられる。多少分からない単語があっても、意味を推測しながら読み進めることが必要である。その際、「〇〇を示している箇所に下線を引いてみよう」といった活動を取り入れることによって、自分で読み進める力を身に付けさせることができる。もちろん、その後は細かく解説して、自分の読解と比較させることが大切である。				

大問10(2)

【場面に応じて書く英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	18.3	30.0	▲ 11.7	17.8	0.5
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。（「いっしょに行くことができるか」と相手を誘う）				
対策	本問のような英作文の問題に対応する力を付けさせるためには、教科書本文の表現を、同じ意味の異なる表現で表すとどうなるのかを考えさせることが有効である。例えば、人を誘う表現の場合、“Can you come?” でも “Why don't you come?” でもよいし、“How about~?” を使える場面もあるであろう。教科書本文のexplanationの時に、「この表現（単語）の代わりに使えるものは何か」と質問して、生徒に考えさせてみるとよい。				